

鳥取県病原微生物検出情報

(令和8年9月検出分 検体採取 令和8年8月～9月)

令和8年10月23日

鳥取県衛生環境研究所

1 急性呼吸器感染症

臨床診断名が急性呼吸器感染症の検体61件について検査を実施したところ、以下のとおりの結果であった。

○検査対象（ウイルス）

ライノ、ヒトメタニューモ、インフルエンザA型及びB型、パラインフルエンザ1-4、RS-A型及びB型、ヒトボカ、SARS-CoV-2、エンテロ、アデノ、コロナNL63、コロナOC43

○検査対象（細菌）

マイコプラズマ

○検出結果

61件中46検体（75%）から上記対象病原体が検出された。内訳は、ライノ：23件、ヒトボカ：8件、ヒトメタニューモ：6件、RS-A：1件、RS-B：1件、SARS-CoV-2：1件、パラインフルエンザ1型：1件、パラインフルエンザ3型：9件、パラインフルエンザ4型：1件、エンテロ：3件、インフルエンザA型：7件であった。令和8年1月から令和8年9月検出分と合わせた年齢別検出数は表1のとおり（ただし、検出件数は重複検出を含む。）。

表1. 急性呼吸器感染症の病原体、年齢別検出件数（令和8年1月～9月検出分）

病原体年齢別検出数(9月検出数/累積)																
年齢	0-4		5-9		10-19		20-39		40-59		60-79		80≧		合計	
標本数	24	198	1	11		10	6	40	11	64	12	89	7	47	61	459
ライノ	18	121		3		1	2	11	1	13	1	13	1	4	23	166
ヒトボカ	8	46		1										1	8	48
ヒトメタニューモ		11					1	4	1	5	3	9	1	5	6	34
RS-A		7										2	1	4	1	13
RS-B	1	5								1		3		4	1	13
SARS-CoV-2		5						1		4	1	16		7	1	33
パラインフルエンザ1		6						1	1	1		1		1	1	10
パラインフルエンザ2																
パラインフルエンザ3	6	8							1	3		4	2	4	9	19
パラインフルエンザ4	1	1		1											1	2
アデノ		19										1				20
エンテロ	2	9					1	1		1		1			3	12
インフルエンザA型		6		2		2	1	5	3	6	3	5		1	7	27
インフルエンザB型		3		4		4		4		3		5		1		24
コロナNL63		7								2		1				10
コロナOC43		21						4		5		6		2		38
マイコプラズマ								2								2
検出せず	2	21	1	2		3	2	9	4	20	4	26	2	15	15	96

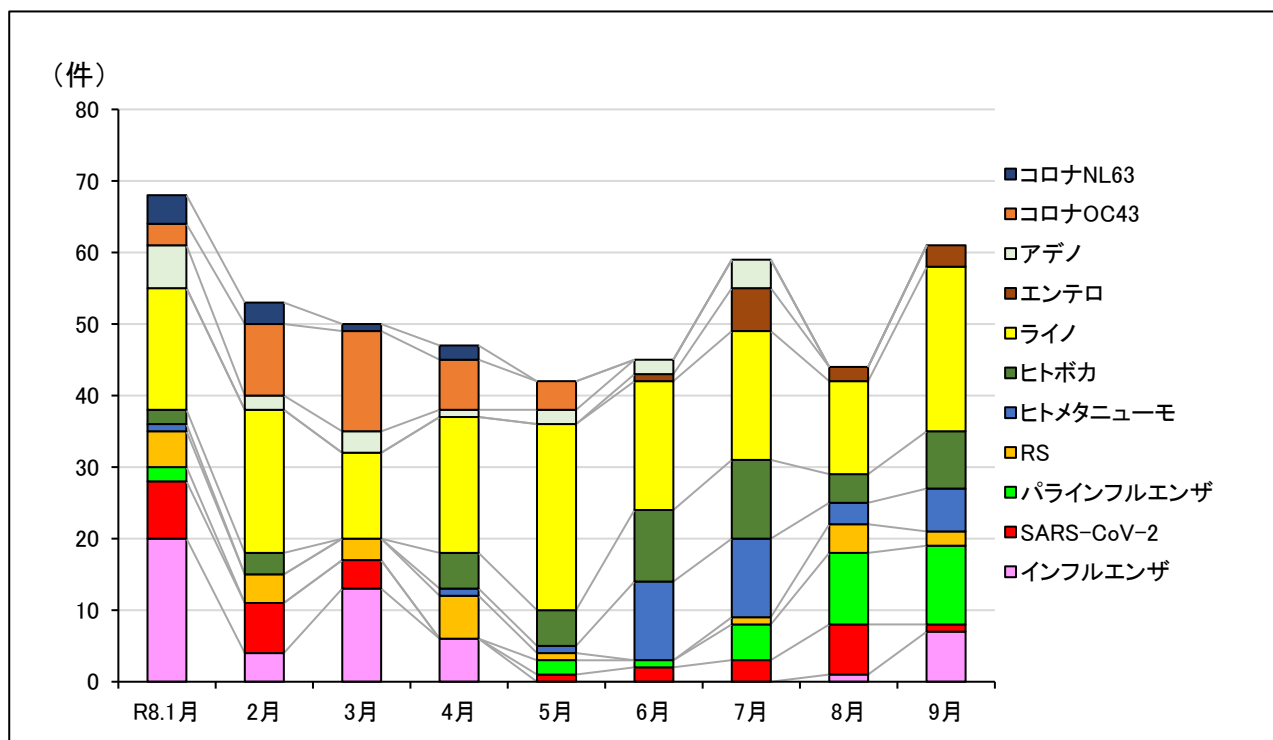


図1. 急性呼吸器感染症の月別ウイルス検出状況（令和8年1月～9月検出分）

インフルエンザは、7件全てA型（H1N1）pdm2009であった。A型（H1N1）pdm2009は、現在国内で流行の中心となっている型である。タミフル感受性については、6件が感受性株、1件は判定不能であった。

2 感染性胃腸炎

臨床診断名が感染性胃腸炎の15件について検査を行ったところ、ノロウイルスGⅡが2件検出され、遺伝子型はGⅡ.P16-GⅡ.4が1件、GⅡ.P17-GⅡ.17が1件であった。この他、エンテロウイルスの型不明が2件、アデノウイルスが3件（C種5型：1件、F種41型：1件、型不明：1件）、サポウイルスが2件、アストロウイルスが3件検出された。

3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

臨床診断名がA群溶血性レンサ球菌咽頭炎の8件について検査を行ったところ、A群溶血性レンサ球菌が3件（T型別3型：3件）分離された。3型は咽頭炎で検出される型である。

4 RSウイルス感染症

臨床診断名がRSウイルス感染症の3件について検査を行ったところ、A型が3件検出された。症状は発熱、咳嗽、鼻汁であった。

5 ヘルパンギーナ

臨床診断名がヘルパンギーナの1件について検査を行ったところ、エンテロウイルスが1件（CA10型：1件）検出された。CA10型はヘルパンギーナの原因となるウイルスである。